



2014～2015年度国際ロータリーのテーマ

ロータリーに輝きを

- No.1470
- 会長 岡本千代門
- 幹事 前田日出夫

平成 27 年 3 月 11 日
第 32 回例会

※例会日 毎週水曜日 12:30～
 ※例会場 〒860-0846 熊本市中心区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内
 ※事務所 〒860-0846 熊本市中心区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内 TEL 354-4521 FAX 354-4053

1. 点鐘

1. 東日本大震災 黙祷



1. 国歌斉唱、ロータリーソング「我等の生業」

1. 来訪者紹介(会長エレクト 内田敏視)

見学 宮川義行 様



1. 会長の時間(会長 岡本千代門)

■災害時の企業の行動

東近江消防本部八日市消防署 勝山 均 様
 災害が発生したときに、企業はどう行動すればよいか。企業で責任のある立場の人は、会社、従業員の動きを把握する必要があり、トップとしての危機管理が問われてくるのではないのでしょうか。

危機管理とは、最悪の事態を避けるために、あらゆる人的、物的な資源を動かして、生命、身体、財産を守り、人々の安定をもたらすことです。

大災害が起きても、落ち着いて行動できるよう、普段から心がけることが防災です。万が一被害が出ても、最小限に軽減できるような体制を常日頃から作っておくことです。意思決定を速くし、従業員に速く伝達することが、被害を少なくするのにつながります。

では、具体的にはどのようにすればよいか。被害発生直後は、従業員、顧客の安全確保と、早期に自らの施設の被害を把握し、二次災害防止のため、適切な対策を取ります。自社施設や地域で火災が発生した場合は、企業が組織する自衛消防組織を活用し地域と協力し、延焼など被害の拡大防止に努めます。

ライフラインの途絶を考慮して、三日間の自立を目標に、従業員の水、食料などの備蓄を行い、被害発生時に周囲に依存しない自立化を図ります。



被災後は、企業内の安全を確認し、可能な範囲で被災者の受け入れや備蓄物資の提供など、地域への貢献、被災者支援を行います。従業員の安全は企業が責任を持って確保します。さらに、公共性の高い電気、ガス、水道、交通などの情報収集を行い、事業所内では各部署から報告された人的、物的被害などを整理します。

災害時は誰もが被害者、被災者になるのです。防災意識は、一人ひとり育てていかなければなりません。

1. 幹事報告(幹事 前田日出夫)

1) 熊本江南RCより、第4回熊本市域RC
会長・幹事会の案内。



日時 平成27年4月22日(水)

14:30～15:30

場所 ホテルニューオータニ熊本 2F「せきれい」

2) 小山康直ガバナー、野田三郎ガバナーエレクトより、国際ロータリー第2720地区 2015～2016年度地区研修・協議会開催の案内。

日時 平成27年5月10日(日)

10:00～16:00

場所 熊本保健科学大学

出席義務者 次年度会長、幹事、各部門委員長

登録料 5,000円

3) 第8回定例理事会報告。

1. ロータリー情報の時間

(ロータリー情報担当委員長 佐野 茂)



■地区大会

地区大会は、地区ガバナーの主宰の下で国際ロータリー会長代理の出席を得て毎年開催されます。

地区開会の目的を考えてみますと

1. まずはロータリアン同士の交換親睦を図るということです。
2. 意義深い感銘を受ける講演を聴くということです。
3. 地区内クラブや国際ロータリー全般に関する問題の討議を行うことです。
4. 国際ロータリー会長代理のアドレスによって、最近の国際ロータリー情報を聴取することができます。

このように主たる目的をもって開催されます。

地区大会の開催日程は、地区研修・協議会、国際協議会または国際大会の日程と重ならないようにします。

なお、国際ロータリーの承認を得て2つ以上の地区と合同で地区大会を開くことができます。

地区大会においては次のような事項を審議します。

- ①前年のロータリー年度の地区財務の監査報告
- ②規定審議会開催の2年前の地区大会では、規定審議会の代表議員の選出
- ③次回の地区大会を推進し、事前登録を奨励する開催期間の発表
- ④地区大会または地区決議会はその地区における重要な事柄について勧告を採択することができます。

それから、地区大会で大きな項目として国際ロータリー会長代理から国際ロータリーの現況報告があり、直接的に国際ロータリーの進もうとしている方向を端的に理解することができるものと思います。

また、地区大会では、国際ロータリー会長表彰、ロータリー財団による表彰、米山記念奨学会による表彰、地区ガバナーによる表彰など各種表彰が行われます。

1. 委員会報告(会長 岡本千代門)

■地区大会の件

送迎バスの人員確認と集合場所の連絡
3月21日県庁前 8:30



(奉仕プロジェクト委員長 中 哲)

■地区補助金事業の紹介

(熊本県下養護施設への自転車寄贈)
児童養護施設・母子生活支援施設
平成27年度中学3年生の人数



- 1 慈愛園子供ホーム 4
- 2 菊水学園 4
- 3 熊本天使園 1
- 4 藤崎台童園 7
- 5 八代ナザレ園 2

- 6 シオン園 6
- 7 光明童園 6
- 8 愛隣園 5
- 9 龍山学苑 5
- 10 広安愛児園 7
- 11 みどり園 3
- 12 湯出光明童園 5
- 13 はばたきホーム 1
- 14 きらきら星レジデンス 1

地区補助金を使って各施設へ自転車を寄贈します。
別記施設平成28年度高校進学者57名、57台、1台当り15,000円、合計855,000円を基準にして申請を行います。

1. 出席報告

(出席・プログラム担当委員長 前田昭博)

	会員数	出席者数	M. U.	修正出席者数	出席率 (%)
2月25日	40 (免4)	24	6	30	83.33
3月11日	40 (免4)	24			66.67

★2月25日 出席免除者(4名)

日置和統会員、河岸彦治会員、住江正治会員、三浦明会員

★3月11日 出席免除者(4名)

日置和統会員、住江正治会員、三浦明会員、古庄浩二会員

★2月25日 欠席者(6名)

河津典和会員、小松野正彦会員、西村陽介会員、潮谷愛一会員、島村徹男会員、白石繁会員
今度の100%出席の日は3月25日です。

1. スマイル報告

(親睦・スマイル担当委員 山本浩之)

◎小畑成司 君 10,000円

先日は私の披露宴にたくさんの御参加ありがとうございました。地味にするつもりが、皆様で盛り上げていただき、本当にありがとうございました。皆様に年寄りの結婚披露宴もよくなあとっていただきました。

◎白木誠一 君 10,000円

小畑君の披露宴は盛大でした。心からお祝い申し上げます。おめでとうございます。

◎佐野 茂 君 3,000円

小畑会員、結婚おめでとございます。祝酒ですっかりよっぱらいました。

◎中島喜代彦 君 2,000円

今日で例会の参加は最後になります。皆様のご健



勝をご祈念申し上げ、ここに健康スマイルをいたします。

◎永松昭武 君 2,000 円

本日は卓話の大役をおおせつかりまして、皆様のお目をけがします。

◎山本浩之 君 2,000 円

今日は気分爽快。だからスマイルします。

◎福井 学 君 1,000 円

本日、ご見学の宮川さんのご来訪と是非ご入会頂きます様に願ひまして！



1. 会員卓話(永松昭武 会)

■管鮑の交り

時は周王朝斉の国の14代目の王は暴君で、女とみると見境なく手を出し、気に入らぬ内でも投獄し、諫言する者は打ち首としました。暴君の下でも「管仲」と「鮑叔」は、仲が良く居酒屋で飲んで談笑し、払いはいつも「鮑叔」持ちで、「管仲」の意見をニコニコと聞いてました。

暴君には「糾」と「小白」と云う弟がいて「管仲」は「糾」に「鮑叔」は「小白」を後見しておりました。

「糾」と「小白」は身の危険を感じ、それぞれ母の国「魯」の国と「キョ」の国へ亡命しました。

ややあって兄の暴君は謀反にあい殺されてしまいました。謀反したものが、斉王を名乗りましたが、又、兵の反乱にあい殺されてしまいました。

そこで重臣達は「糾」と「小白」にそれぞれ使いを遣り帰国して斉王を名乗る様願ひました。

「糾」と「小白」は急ぎ支度して斉へと向かいました。色々あって「小白」と「鮑叔」の方が早く斉へ着き、即位して「桓公」と名乗りました。「糾」と「管仲」は身の危険を感じ、又、魯の国へと引き返しました。

斉の「桓公」と「鮑叔」は相談し、「糾」と「管仲」が生きていては、この斉で何時謀反が起きるか解らぬ。魯を攻めて、「糾」と「管仲」を殺そう。それが後々の禍いを絶つことになり、国を一つにまとめる2君があつてはなりません。しかしながら、「管仲」は得難い人材で、斉の為に役に立つ人材なので、殺さないでください。

「管仲」を用いた国は必ず天下に重きをなすでしょう。我君が斉一国の統治を考えるなら、私「鮑叔」と大夫の2人で充分補佐できます。しかし天下を望まれるな

ら「管仲」以外に適任者はいません。と「鮑叔」は進言し、その秋「桓公」は魯に兵を進めました。斉軍は圧倒的な強さで魯運を窮地に追いやり、魯陣に使者を送り、「糾」は我が兄弟ゆえ、自分の手で成敗するのはしのびないので魯の方で始末を「管仲」は反逆者ゆえ自分の手で殺さねば気が済まぬ。身柄を引き渡してもらいたい。もしいやだと云うなら魯軍を全滅させる。と使者に云わせました。こうして「糾」は打首、「管仲」は罪人として斉の陣に送られました。出迎えた「鮑叔」は「管仲」の手錠を解き、桓公の前に伴った。桓公は斉を強国にする方法を問いました。「管仲」は商業を奨励して、人々を豊かにする事ですが、まずは農業を奨励して人々を飢えさせぬことです。

古来より「倉廩実ちて礼節を知り、夜食足りて榮辱を知る」簡単に「夜食足りて礼節を知る」と云っておりま

す。政治はまず与える事、その次を取る事である。人々を飢えさせぬこと。人々に飢えの心配がなくなれば、着る物や装飾品を求めると商業が発展し諸国の商人も集まって来て、お金をおとすと国が富ん来る。又、不正を働く者、道はずす者には、厳しく取り締まることが重要です。この理念を理解した桓公は実行にうつさせようと「管仲」を宰相としました。「鮑叔」は「管仲」の下の地位について補佐しました。

この様に相手を良く理解して、付き合う交友関係を「管鮑の交り」と云います。この2人の故事から来た言葉です。

(佐野 茂 会員)

■わが人生の1ページ

いつもはロータリーの話ばかりですが、今回は私の人生のひとつの出来事をお話します。このことは十何年前でしたか「わが人」ということで話した時と一部重複した話になります。私を除いて皆さん方は殆どの方が戦争ということ全く知らない世代ですので、70年前の私が18歳の時の話をします。

70年前の昭和20年8月15日は、第2次世界大戦、日本では大東亜戦争と唱えていましたが、日本が無条件降伏し、終戦になった日です。

私は、陸軍士官学校に在学中で、兵科は機甲(戦車)でしたので、神奈川県座間で訓練中に終戦を迎えました。

当時、戦況激化にともなって、地上兵科の主力の歩兵、工兵の兵科の学生は浅間あるいは長野へと疎



開訓練に出かけておりまして、座間の学校で訓練していたのはわれわれの機甲、砲兵、船舶などの特殊兵科だけで、大体三百人ほどでした。

終戦前夜の14日の夜半から15日の朝にかけては、アメリカのグラマン艦載機が飛来して、学校が波状攻撃の空襲を受け、吾々は防空壕の中で夜を明かし一睡できない状況でした。

そして、15日には正午に、天皇陛下の玉音放送があるということで、第一装に正装して校庭に整列しました。

その当時はすでに沖縄は激戦の末連合軍に占領されておりまして、そのため、いよいよ本土決戦に備えての戦意昂揚の激励のお言葉があるものと誰もが信じて居りました。

放送が始まりましたが、どうも雑音がひどくてよく聞き取れませんでした。ただ、「忍びがたきを忍び、耐えがたきを耐え」というお言葉だけが耳に残り、何か不安な気持ちが胸をよぎりました。玉音放送が終わって、区隊長から、戦争終結、無条件降伏ということが告げられ、一瞬頭から血の気が引く思いがしまして、その日1日、何もする気がなく、虚脱状態でありました。

その日以降、学校側からは何の指示命令もなく、われわれ学生は勝手気ままに、今後徹底抗戦するか、あるいは成り行きに任せるかということをや丁丁発止、議論しあっていましたが、なかなか結論が出ません。

そうこうしているうちに、学校と相模川をはさんだ対岸に厚木飛行場がありまして、ここに海軍航空隊が本土防衛のために待機して居りましたが、この航空隊の海軍士官が吾々のところにやってきました、「連合軍が最初に日本にやってくるのは、航空機で厚木飛行場に降り立つことが判明した。連合軍の上陸を絶対に阻止して共に徹底抗戦し国体を護持しよう」と檄を飛ばしに参りました。

1期先輩の士官候補生が、学校内にある神社の前で割腹自殺を遂げたという報せが入ってきましたし、更に、1期先輩の機甲が戦車を連ねて都心に向かったが、途中で引き返したという情報が入ってきました。

このような情勢を受けまして、我々も後れをとってはならないと、腹が決まりまして、徹底抗戦の戦闘準備にかかりました。学校にある数十台の訓練用の九七式中戦車は、南方戦線で活躍した戦車と同じ型で性能がよく、この戦車9台に戦車砲弾、重機関銃弾をところせましと積み込んで完全武装しました。申し遅れましたが、同期の機甲は全員で29名でしたので、

1台に3名ないし4名乗車で準備したわけです。

玉音放送以来、学校側からは特に明確な支持、命令もなく、われわれは勝手に武装した戦車を、学校に隣接している練兵場に繰り出して戦闘訓練に明け暮れまして、連合軍の日本進駐を今か今かと待ち受けた状態にありました。

われわれは、いずれ本土決戦の時には、玉砕する覚悟でしたので、国体を護持するための捨て石になろうと意気盛んでありました。

このように、学校内に緊張した殺気立った空気がみなぎっておりましたので、このままの状態で連合軍が厚木飛行場に降り立ったならば衝突は避けられないと、学校側が危惧いたしまして、機甲の学生を学校から移動させようということになり、8月23日に丸腰で強制的に長野県田中村に移動させられました。言ってみれば、戦後に疎開したようなものです。

思えばそのまま突っ走っていたならば、18歳で人生を終わり、無駄死であったろうと思います。

さすれば、私のその後の人生はなかったでしょうし、今日、このように皆さん方と逢うこともできなかったのではないかと、感無量のものがあります。

1. 委嘱状

2015～2016年度 RI第2720地区

*ブライダル委員 内田敏視会員、白木誠一会員

*青少年交換委員 中 哲会員

1. 中島喜代彦会員の退会の挨拶



1.

(編集 永野昭一)